



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	まえがき
Author(s)	池田, 栄一
Citation	国際中等教育研究 : 東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究紀要(1)
Issue Date	2008-03
URL	http://hdl.handle.net/2309/89461
Publisher	東京学芸大学附属国際中等教育学校
Rights	

まえがき

校長 池田 栄一

2007（平成 19）年 4 月、東京学芸大学附属大泉中学校と附属高等学校大泉校舎を再編・統合して、附属国際中等教育学校が誕生しました。本校は国立としては唯一の、中高一貫のインターナショナルスクールです。現在は前期課程（中学）1 年生の 107 名が在籍しております。今後、年次進行で入学生・編入生を受け入れ、全学年が揃うのは 2012（平成 24）年になります。それに伴って、既設の附属大泉中学校と附属高等学校大泉校舎は漸次縮小していきますが、当面は同じキャンパスに 3 校が共存する形をとります。教員も全員が国際中等教育学校に所属し、中学校か高等学校の教諭を兼任しております。こうした研究・教育体制を反映すべく、新たに研究紀要『国際中等教育研究』を創刊し、附属大泉中学校の研究紀要『研究集録』第 48 号、および『帰国子女教育研究』第 42 集との合併号として、ここに刊行いたしました。

附属国際中等教育学校の創設にあたっては、大泉地区における帰国生徒・児童教育の長い歴史を抜きには語れません。1965（昭和 40）年に附属大泉中学校に「帰国子女学級」が設置されたのを皮切りに、1969（昭和 44）年には附属大泉小学校に「海外帰国子女教育学級」が開設、1974（昭和 49）年には帰国生徒教育を目的とする附属高等学校大泉校舎が開校しました。こうした 40 年にわたる研究・教育実績を踏まえて、2002（平成 14）年から中等教育学校設置の検討が始まり、2007 年の開校に向けての準備が進められてきました。本号に収められた報告「附属国際中等教育学校開校までの取り組み」は、開設準備室長として陣頭指揮を執った筆者による、開校にいたる準備の概要であり、今後相次ぐと予想される同種の学校設立に携わる関係者にとっては、必見の資料になると確信いたします。

附属国際中等教育学校の特徴は、なによりもそのカリキュラムにあります。文部科学省が定める学習指導要領に準拠することは言うまでもありませんが、さらに国際社会で生きる力を養うために、「世界標準」カリキュラムを導入することにいたしました。具体的には、国際バカロレア機構が提供する MYP（ミドル・イヤーズ・プログラム）に基づくカリキュラムを指します。（2007 年 12 月に、本校は MYP の認定候補校になりました。）MYP の理念は、世界と人間とのつながりを重視するホリスティックな教育観にあります。本校ではこの理念を、「国際教養」「J S L（第二言語としての日本語）指導」といった形で実践しております。本号所収の 3 篇の論考「MYP における教科連携授業の姿——国語科・情報科の授業の試験的実践——」、「中等教育学校における J S L 理科の実践研究 I ——六年一貫教育での日本語指導と教科教育——」、「国際バカロレア MYP を視野に入れた美術科カリキュラムの実践研究——米国中学校との交流授業と美術館での鑑賞授業を中心に——」は、MYP がいかに本校の授業で具体化されているかを生き生きと示す好例であると思われます。

その他に、本号には附属大泉中学校 58 期生の担任団による「帰国生徒の実態報告——58 期生——」が収載されています。帰国生ひとりひとりの生活に丁寧に寄り添った貴重な資料です。

今年度、大泉キャンパスにおける研究・教育は大きな節目を迎えました。皆さまの忌憚のないご高評を賜れば幸いに存じます。